

## 口永良部島の火山活動解説資料（平成 24 年 7 月）

福岡管区気象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方気象台

火山活動は静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。ただし、新岳火口内では噴気活動が続いており、火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。

平成 24 年 1 月 20 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

### ○ 7 月の活動概況

#### ・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 2）

新岳火口の噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が火口縁上 300m 以下の高さで経過しました。

#### ・地震や微動の発生状況（図 2、図 3）

火山性地震の月回数は 49 回（6 月：67 回）と少ない状態で経過しました。火山性地震の震源は、新岳火口付近のごく浅いところに分布しました。

火山性微動の継続時間の月合計は 2 分（6 月：4 分）でした。

#### ・地殻変動の状況（図 2、図 5、図 6）

GPS 連続観測では、火山活動によると思われる変化は認められませんでした。



図 1 口永良部島 噴煙の状況（7 月 9 日、本村西遠望カメラによる）  
白色の噴煙が火口縁上 300m 以下の高さで経過しました。

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 24 年 8 月分）は平成 24 年 9 月 10 日に発表する予定です。  
※この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

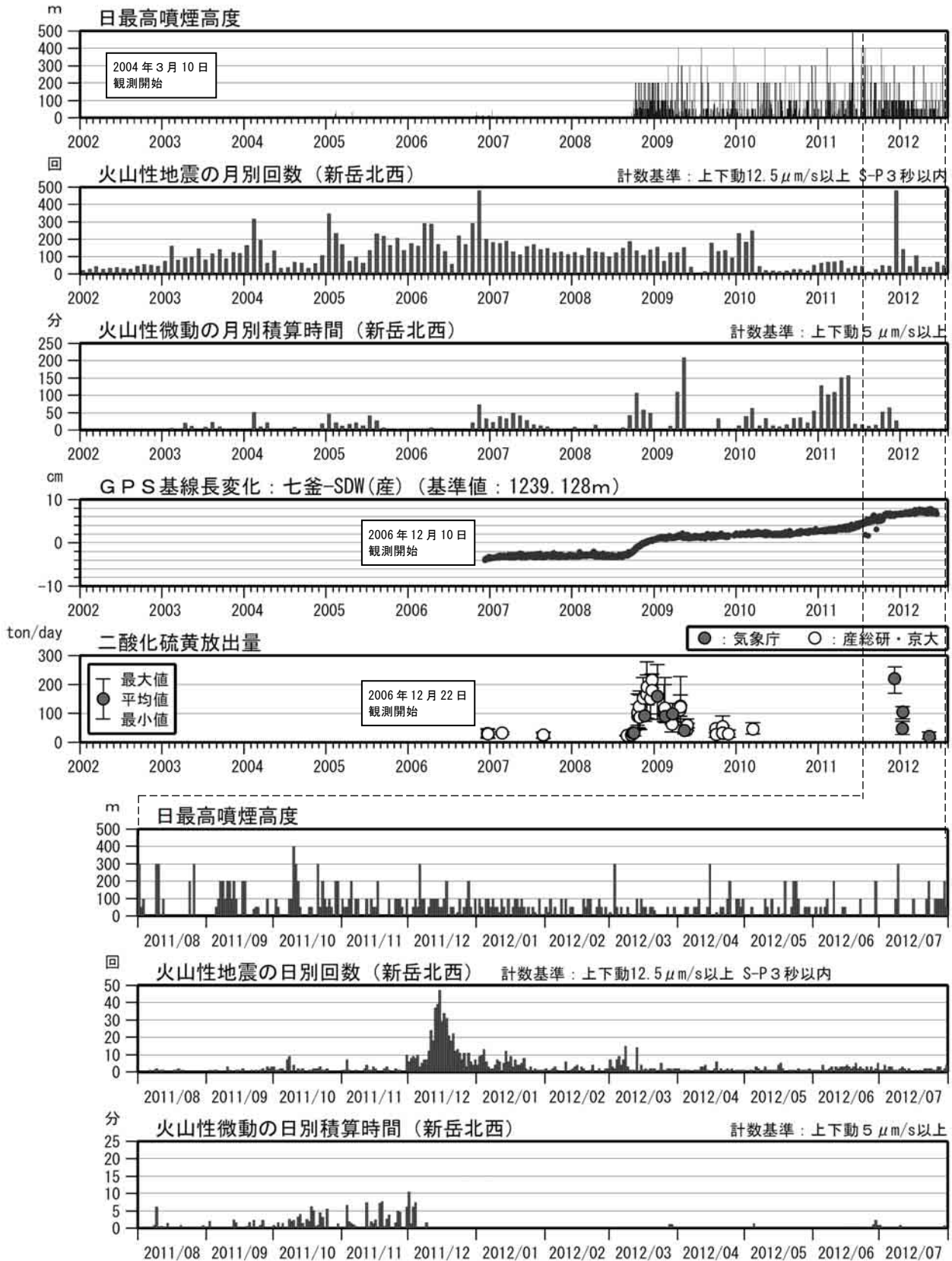


図2 口永良部島 火山活動経過図（2002年1月～2012年7月）

< 7月の状況 >

- ・ 白色の噴煙が火口縁上 300m以下の高さで経過しました。
- ・ 火山性地震の月回数 は 49 回（6月：67回）と少ない状態で経過しました。
- ・ 火山性微動の継続時間の月合計は 2分（6月：4分）でした。

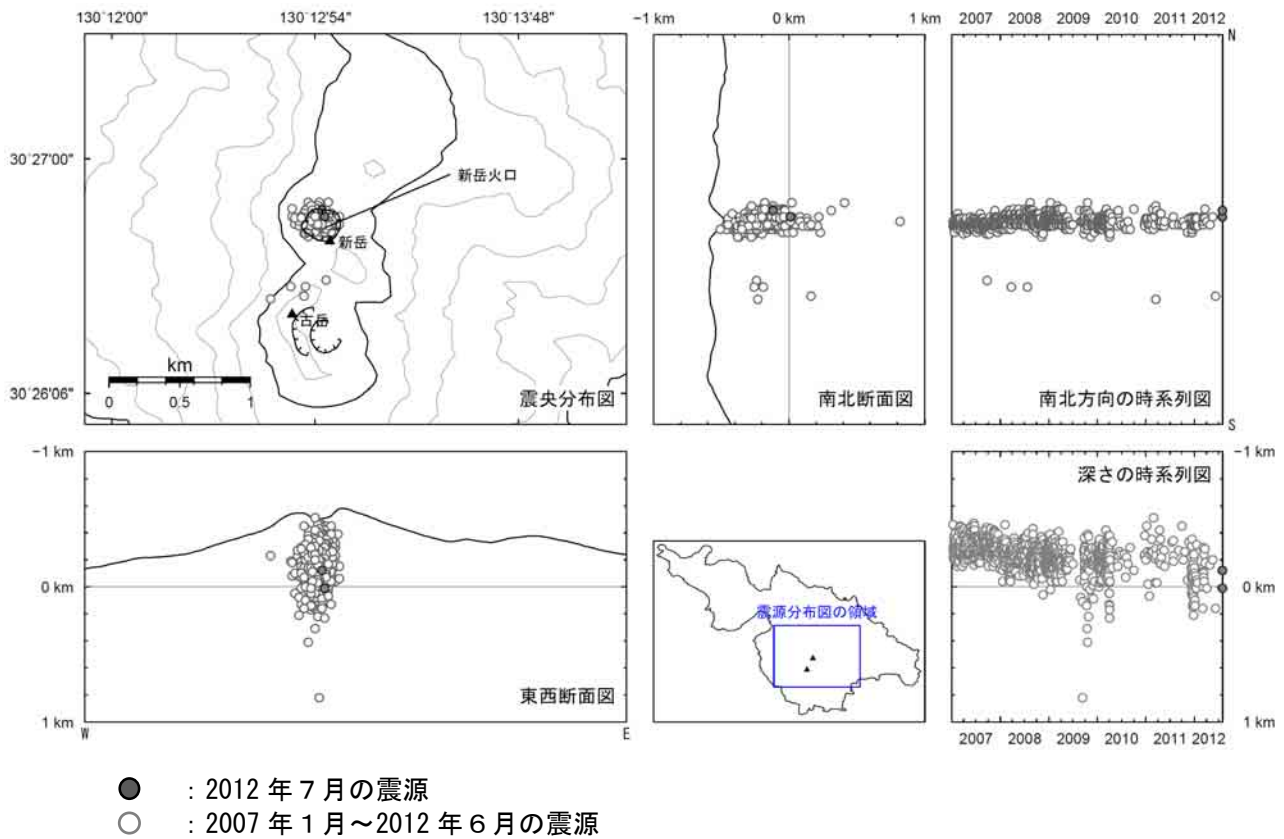


図 3※ 口永良部島 震源分布図（2007 年 1 月～2012 年 7 月）  
 < 7 月の状況 >  
 火山性地震の震源は、新岳火口付近のごく浅いところに分布しました。

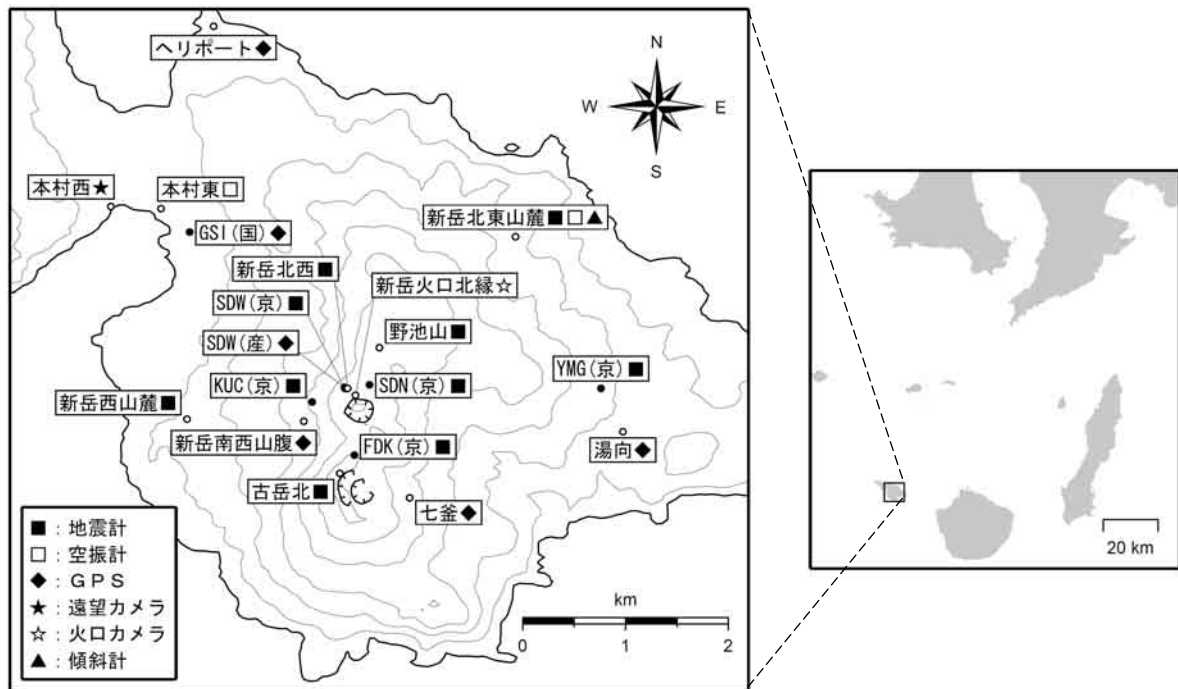


図 4 口永良部島 観測点配置図  
 小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国)：国土地理院、(京)：京都大学、(産)：産業技術総合研究所

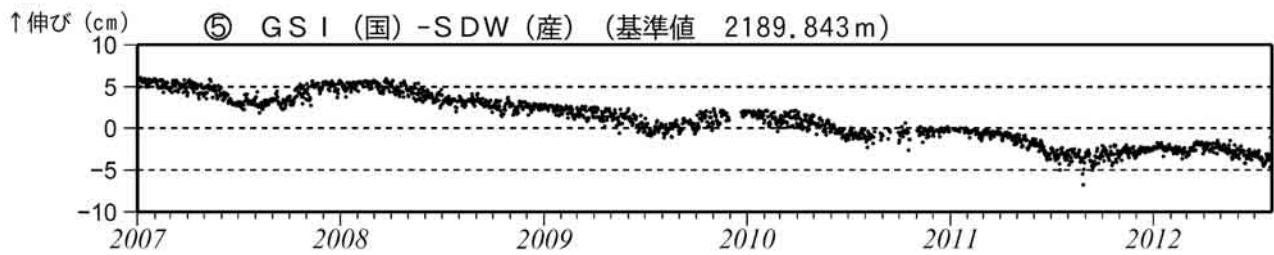


図5※ 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化 (2007 年 1 月～2012 年 7 月)  
GPS 連続観測では、火山活動によると思われる変化は認められませんでした。

この基線は図 6 の⑤に対応しています。

2010 年 10 月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。

基線①、②、③、④、⑥、⑦、⑧、⑨は観測点障害による直近データ欠測のため掲載を省略しました。

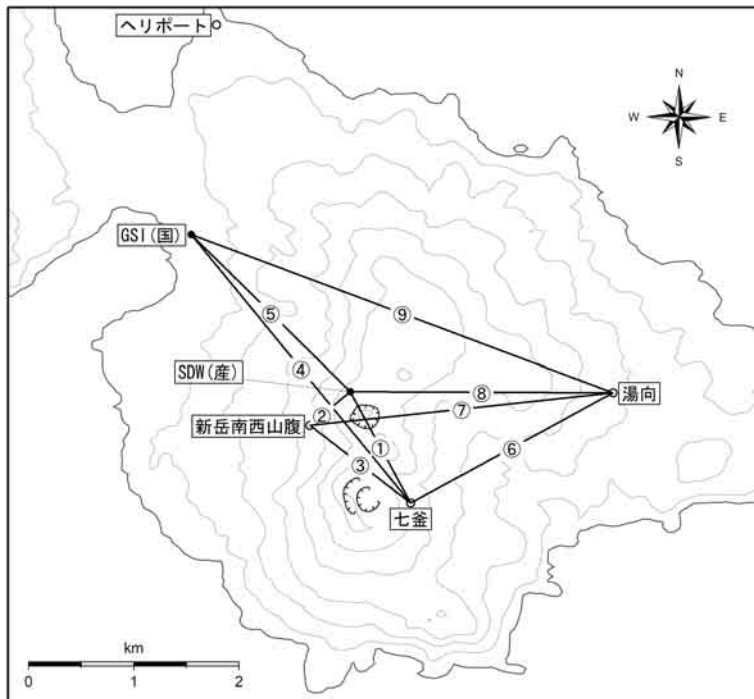


図 6 口永良部島 GPS 連続観測点と基線番号

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は他機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院、(産) : 産業技術総合研究所

ヘリポート観測点は現在調整中です。